

短時間型通所リハビリテーションの担う役割についての一考察

○渡邊悠馬 田島雅祥 須寄由起子
工藤美和 工藤弘之 進藤晃



【はじめに】

近年の医療・介護情勢を踏まえ、当院では平成 28 年 4 月より 1 時間以上 2 時間未満の通所リハビリテーション（以下通所リハ）を開設した。外来リハビリテーション（以下外来リハ）の受け皿としての役割を担う一方、社会参加を維持できる地域資源への移行を目指すという役割も意識して運営を行ってきた。今回、当通所リハの現状について調査を行ったため、以下に報告する。

【対象と方法】

平成 28 年 4 月～29 年 10 月までに当通所リハを利用された 47 名を対象に、基本情報、利用期間、利用目的、Barthel Index（以下 BI）及び改訂版 Frenchay Activities Index（以下 SR-FAI）の点数について調査を行った。

【結果】

全利用者のうち改善終了者は 7 名（14.9%）であり、平均利用期間は 4.6 ± 3.2 ヶ月となっていた。改善終了者の利用目的は「生活課題の解決」が 85.7%を占めたのに対し、外来リハからの移行かつ継続利用者では「機能訓練」が 57.1%であった。また後者の平均利用期間は 17.7 ± 1.9 ヶ月となった。全ての継続利用者における BI・SR-FAI の開始時と最終測定時の点数を比較すると、BI はほぼ維持レベルだが SR-FAI は平均 2.5 ± 3.6 点向上しており、外来リハ移行者に限っても平均 1.1 ± 1.7 点の向上が見られた。

【考察】

改善終了者が 14.9%おり短期間で終了にも繋がっているため、一定の役割を果たしていると考えられる。継続利用者についても SR-FAI の向上は見られ、より本人の自信に繋がられるような介入を行い地域資源への移行を進めていくことが課題として挙げられる。外来リハからの移行者は生活課題が明確になりづらく、利用が長期に渡りやすい。しかし当院のような地域資源の乏しい地域においては活動レベルを維持する場所としての役割も重要であると考えられる。BI・SR-FAI 点数は緩やかではあるが向上が見られており、継続して支援していきたい。